

# 序 文

まず、ご多忙中にもかかわらず本書の発刊のためにご執筆いただいた先生方に心より御礼申し上げたい。本書は、研修医や若手消化器外科医（新外科専門医）が実際に臨床現場で行う機会のある基本の標準手技を解説するシリーズ『ビジュアルサージカル 消化器外科手術』（①上部消化管，②下部消化管，③肝臓・脾臓，④胆嚢・膵臓，⑤消化器外科手術の基本〈基本編〉，以上の全5冊から成る）の『下部消化管』編として刊行されたものである。

編集にあたっては、イラストを多用することにより手技のポイントが若手外科医に視覚的に理解しやすい手術書となることを目指した。さらに、特に注意すべき手技については適宜動画を挿入していただくように各執筆者にお願いした。読者はQRコードを読み取ることによって手持ちのモバイル機器で随時動画を見ることができるとというのが本書の特長である。

若手外科医が執刀する手術の中で、「虫垂切除術」と「ヘルニア修復術」を初級レベル、「人工肛門手術」と「腸閉塞手術」を中級レベル、「結腸切除」と「直腸切除」を上級レベルとランク付けすることはできるかもしれないが、どのレベルの手術であっても術者が守るべき手技の基本は共通しているのではないだろうか。特に各執筆者が指摘されている手技上のポイントは、経験を積んだ指導医諸氏にとっても参考になるところが少なくないと思われる。若手外科医だけでなく指導的立場におられる先生方も是非ご一読されることをお勧めする。

最後に、本書の立案から出版まで一貫してご協力いただいた株式会社学研メディカル秀潤社書籍編集部の谷口陽一氏に深謝申し上げます。

2018年11月

杏林大学医学部外科（消化器・一般外科）教授

正木 忠彦